

| | |
|-----------|--|
| 学位被授与者氏名 | 鍋倉 功 |
| 論文題目 | 学童保育における「気になる子ども」への理解と支援 —指導員へのコンサルテーションを交えた取り組み— |
| 論文審査結果の要旨 | <p>本論文は学童保育現場で指導員が最も対応に苦慮している「気になる子ども」に対して、「アタッチメントの問題」「自我・社会性の発達のみずみ」「発達障害」という3つの観点からアセスメントと支援の課題を理論的に整理するだけでなく、自らがコンサルタントとして3つの学童保育現場に入って自らの仮説に基づく「直接支援」の取り組みの成果と課題を整理しており、学童保育研究の領域では数少ない実践研究論文となっている。とりわけ、現在、制度的に普及してきた学童保育におけるコンサルテーションの取り組みについて、先行研究の整理と同時に、自身のコンサルテーションの実践をもとにして、学童保育指導員の立場でのコンサルテーションの意義と課題を整理しており、これまでの学童保育研究に新たな知見を提起するものとなっている。</p> <p>その一方、「気になる子ども」の問題をアセスメントし、その支援の方向性を明らかにしていく視点として挙げられた三つの観点が並列的に述べられており、その関係が明確ではない。また、論文の記述をみると、発達論的な説明が十分に可能な現象もASDの子どもの発達特性の問題に還元されている部分が多くあり、また、アタッチメントの問題と自我・社会性のみずみの問題の記述にも重複が見られる。もちろん、これらの3つの局面が密接に関連し合っていることを考えれば、このような重複は必然的に生じてくるものであるともいえるが、「気になる子ども」をアセスメントしていく切り口として、この3つの観点を取り上げるのであれば、エリクソンの発達課題の理論なども参考にしつつ、それらの関係を構造的に整理する必要があると考えられる。</p> <p>また、今回の論文では、心理士や作業療法士とは異なる学童保育指導員によるコンサルテーションの意義と課題が整理されているが、コンサルテーションを通して、他の指導員がどのように変わったのか、について、具体的な事実を踏まえた検証も必要であろう。</p> <p>ちなみに、コンサルテーションという用語は心理や社会福祉領域では他職種によって行われるものとされており、今回の鍋倉氏の関わりをコンサルテーションという言葉で説明するどうかについては再検討の余地がある。(註 看護の領域では専門的な知識を持つものが問題解決をするために手助けする援助課程であり、同職種で実践されるものとなっており、領域によってコンサルテーションの定義は異なっている。)</p> <p>さらに言えば、本研究における「直接支援によるコンサルテーション」は多分に鍋倉氏だからできた取り組みであると感じられる面もあり、今回の知見を一般化していくことにはやや困難さがあるようにも思われる。しかし、試論的ではあるとしても、一つの新しいコンサルテーションのあり方を提起した点には意義があったと考えられる。</p> <p>2022年2月17日に、審査委員全員出席のもとで、B202教室にて最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p> |

